

アール・デコの館

2010.03.25 (thu) - 04.11 (sun) 10:00 - 18:00 (17:30)

庭園美術館 建物公開

年に1度の公開日。旧朝香宮邸(都・有形文化財)の春を、どう過ごす？

領域探査
デザイン
と古びる

桜鑑賞編。夜桜とサティの調べ

暮れていく群青の空に降るように咲く満開の桜。足を止めては何度も見上げるので、なかなか館に辿り着かない。入館して程なく、サティの調べがふわりと流れ始めた。展示に集中するともしないともなく、部屋を移動して壁を通り過ぎるたび、遠ざかり音質を変えるピアノの響きを楽しんだ。自身の作風を「家具の音楽」と呼んだ仏の作曲家エリック・サティは、1925年パリで朝香宮夫妻が感銘をうけたアール・デコ博の開催と同じ年、奇しくもこの世を去っていた。ちょうど時代の接点以降、当時も親しまれた音楽だろう。「アール・デコの館と音楽を鑑賞する人の観察」も楽しんだ。ソファで寛ぐ人、階段に腰掛ける人、ピアノの傍らからじっと動かない人。演奏に身を任せてゆらゆら漂い、2階の照明を落とし小さな「書庫」で、今回桜の時期の建物公開の答えを見た気がした。カーテン越しの夜闇に白く浮かぶ桜と、ハッとするほどの1対1の対面がそこに用意されていた。閉館まで時間を過ごし、ライトアップされた館が桜の枝に隠れて見えなくなるまで、振り返り振り返りして庭園美術館を後にした。今回、庭園美術館からご提供頂いた招待券で入館した有志から感想を募り、次ページに集めてみた。他者がどこに注目したか、来年の公開日に行く方の参考になればと思う。庭園の桜と外観はスライドショーでご参照を。

(文/企画者・新藤) [参照] 桜絶景の建造物ガイド <http://www.ryookitansa.com/spring/> [協力] 東京都庭園美術館 © Ryouikitansa Design

領域探査
デザイン

中古スケルトン賃貸普及プロジェクト [®]

企画 / 領域探査デザイン www.ryookitansa.com

目黒区目黒2-11-14 大鳥ビル53号
tel/fax 03-6662-5350
shindo@ryookitansa.com

2010.04.28

レポート



①



②



③



④



⑤

コメント①

桜も満開の金曜の夜、旧朝香邸に足を踏み入れた私を迎えてくれたのはサティの『6つのグノシェンヌ』だった。折しもその日は『サティの曲を聴きながら建物を楽しむ』という趣向がほどこされていた。1階の大広間で演奏されるサティの曲が建物全体の雰囲気を高めている。

恥ずかししながら庭園美術館の存在は知っていたものを踏み入れたのは初めて。その記念すべき日(?)が、私がサティの曲の中で最も好きな『6つのグノシェンヌ』で飾られたことに一方ならぬ縁を勝手に感じつつ、随所に施された装飾の美しさに魅了されてしまった。一つ一つが非常に豪華で美しい。しかし、これだけのものが集まった場合、一歩間違えばおもちゃ箱をひっくり返した状態になりかねない。しかし、全てが調和し、それにより空間としての奥行きが増しており、窓一つとっても、そこから見える景色が計算しつくされている。

もっとも驚かされたのが、大広間から続く『次室』の壁である。鮮やかなオレンジ色をし、所々銀色に輝くこの石、実は天然石ではなく、ブラチナを織り込んだ人造石であった。今こそ『本物志向』が言われているが、当時の技術の文字通り結晶である人造石は使いたくても使えない素材だったのではないだろうか。それを使うことができたことに時代の持つ重みを感じた。

2時間弱の時間があっという間に過ぎてしまい、もっともっとここにいたい、そう思わせる空間だった。(千葉県/建築士 エミコさん)

コメント②

9日にもう一度、サティの調べに挑戦するつもりだったけど、やはり仕事で行けなくて、とても残念な思いをしています。

そう、サティの中で館を観ることはできなかったけれど、館のインパクトは強烈でした。久々、崇高な芸術に触れられて、浴せてとてもとても幸せでした。

特に書庫の窓に切り取られた桜は見事でしたね。建物を造った人、そこに住んだ人の智慧の高さが書庫にあったという感じ。(ちょっとダジャレです)館全体を見ても貴族文化の高みというものは、庶民には到底届かないところにあるものだと思います。

いや、ホントに素晴らしかった。次回公開の時にはぜひまた行ってみたいと思います。(千葉県/音楽選曲 リエコさん)

コメント③

夜桜とサティの組合せに魅かれて、夜間開館時に参加した。館内の撮影と鑑賞は両立するのが難しく、ゆっくり「鑑賞」したくなって、晴れた日の昼にもう1度行ってみたい。宮家の「邸宅」として建てられながら、首相公邸、迎賓館への変更に対応し得る気品や質の高さに驚く。後に吉田茂も使用したという地下書斎は、意外にもこじんまりとした「庵り部屋」的印象で、どの方向にも回転できる机など、執務中の気分転換の形なのだろうと想像したりした。離れの茶室から見た日本庭園も陰影が美しく、庭園の芝が青くなる頃、また訪れてみたいと思う。(東京都/ライター フジさん)

コメント④

庭美のアルデコ建築は建物自体が持つ美術としての価値に加えて、パリでの生活からアルデコ様式に魅せられた朝香宮が造営され、住まわれていらしたという歴史的価値がとても大きいと思う。戦前の旧皇族方の暮らしを現代に垣間みられるとても貴重な空間。

ラリックの特注のガラス工芸や宮内省匠寮の仕事による、照明やマンテルピースなどアルデコ様式で設えられた細部の意匠がとても繊細且つ華やか。

この建物が建った昭和の初期という時代は興味深い時代代と思った。(東京都/フォトグラファー ユウジさん)